



JENESYS2024 日本・インドネシア生活文化交流（日本人高校生等派遣）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】日本の高校生 6 名、引率教員 1 名が、生活文化をテーマに日本とインドネシアの相互理解を深めることを主目的に、12 月 3 日から 12 月 10 日までインドネシアのジャカルタを訪問しました。一行は、現地の高校で日本の文化や魅力を紹介するプレゼンテーションやワークショップを行い、またホームステイを通して現地の家庭生活を体験し、生活文化や習慣の違いを肌で感じました。在インドネシア日本国大使館への表敬訪問や独立行政法人国際協力機構（JICA）インドネシア事務所の視察を通じて、両国の関係や日本の開発援助について学びを深めました。また、参加者はこれらの体験を通じて得た学びや日本の魅力を、SNS 等を活用して積極的に発信しました。

【参加者】日本の高校生及び引率者 合計 7 名

（内訳）福岡市立福翔高等学校 生徒 6 名、引率者 1 名

【訪問地】インドネシア ジャカルタ 7 名

【日程】

■ プレプログラム（事前学習）：

- 8 月 27 日（火曜日）
【オリエンテーション】全体初回オリエンテーション
【体験談】JENESYS 派遣プログラム 2023 年度参加同窓生による体験談
【講義】「ようこそ、日本アセアンセンターへ」
2024 年度全 JENESYS ASEAN 派遣プログラム合同実施
講師：東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター（国際機関日本アセアンセンター）観光交流チーム 渡邊 光生 氏
- 10 月 25 日（金曜日）
【講義】派遣国理解講義「インドネシア概要」
講師：公益財団法人笹川平和財団 第 2 グループ（平和構築支援担当）
研究員 藤本 迅 氏
- 11 月 21 日（木曜日）
【参加者説明会】福岡市立福翔高等学校内

■ 派遣プログラム：

- 12 月 3 日（火曜日）
【出発前オリエンテーション】
福岡空港より出発
スカルノ・ハッタ国際空港到着
- 12 月 4 日（水曜日）
【表敬訪問】在インドネシア日本国大使館 二等書記官 石田 智彦 氏
【表敬訪問】インドネシア青年スポーツ省
【視察】イスティクラル・モスク、ジャカルタ大聖堂（カテドラル）、パサールバル（市場）
- 12 月 5 日（木曜日）
【学校交流】SMA Labschool kebayoran
【視察】独立行政法人国際協力機構（JICA）インドネシア事務所

12月6日（金曜日）	【学校交流】SMKN37 Jakarta
	【ホームステイ】
12月7日（土曜日）	【ホームステイ】
12月8日（日曜日）	【体験】バティック体験（Museum Tekstil Jakarta） 【ワークショップ】報告会準備（渡航成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成
12月9日（月曜日）	【報告会】渡航成果・帰国後の活動計画発表 スカルノ・ハッタ国際空港より出発
12月10日（火曜日）	福岡空港到着

2. 記録写真

プレプログラム（事前学習）

<p>◆ ASEAN加盟の歴史</p> <p>ASEANについて知ろう！</p> <p>日系企業：14,500社以上</p>	
<p>2024年8月27日【講義】 「ようこそ、日本アセアンセンターへ」</p>	<p>2024年8月27日【講義】 集合写真</p>
<p>2024年10月25日【講義】 派遣国理解講義「インドネシア概要」</p>	<p>2024年11月21日【参加者説明会】</p>

派遣プログラム

<p>2024年12月4日【表敬訪問】在インドネシア日本大使館 二等書記官 石田 智彦 氏</p>	<p>2024年12月4日【表敬訪問】インドネシア青年スポーツ省</p>

	
2024年12月4日【視察】 イスティクラル・モスク	2024年12月5日【学校交流】SMA Labschool kebayoran 日本紹介プレゼンテーション
	
2024年12月5日【視察】 JICA インドネシア事務所	2024年12月6日【学校交流】 SMKN37 Jakarta (書道体験)
	
2024年12月7日【ホームステイ】	2024年12月8日【体験】 バティック体験 (Museum Tekstil Jakarta)
	
2024年12月9日【報告会】	2024年12月9日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

プレプログラム（事前学習）

◆ 高校生

インドネシアの歴史や、日本とのつながりを詳しく知ることができてよかったです。インドネシアは人口の約9割がイスラム教徒なので、宗教上やつてはいけないことやルールも改めて知ることができ、実際に現地に行った際にも意識して気をつけたいと思いました。また、英語だけではなく、挨拶などの簡単なインドネシア語も覚えて、積極的にコミュニケーションをとりたいと思いました。

派遣プログラム

◆ 高校生

インドネシアで日本が高く評価されていることに感銘を受けました。これは、これまで多くの日本人が長い年月をかけて信頼を築き上げてきたからこそだと思います。私も、日本をもっと多くの人に知ってもらえるよう、何か行動に移せたらと考えています。また、インドネシアにはすばらしい文化や物がたくさんありましたが、一部で不便さを感じることもありました。その経験を通じて、日本のすばらしさや便利さを改めて実感しました。

◆ 高校生

インドネシアの人々の優しさに感動しました。困ったときに声をかけてくれたり、知らない人同士でも挨拶や笑顔を交わしたりする場面が多かったです。その理由を考えると、インドネシアの人々は考えたことを行動に移す勇気があり、裏を読まずに素直な行動を取れるからだと思いました。さらに、インドネシアの人々は自信に満ちており、自撮りをSNSに投稿したり、他言語を積極的に使ったりする姿が印象的でした。これは、相手をよく褒め合い、多様な価値観を認め合う文化が背景にあるからだと感じました。周囲を大切にすることで、自分自身も大切にできるという考え方方が根付いていることに感銘を受けました。

◆ 高校生

インドネシアには日本企業が多く進出しており、地下鉄の建設などインドネシアの発展に貢献していることに感動しました。また、インドネシアの町並みや独自の文化、人々の温かさにも触れ、とても楽しくてすばらしい場所だと感じ、再び訪れたいと思いました。今回の交流を通じて、ネットの知識だけでは分からない現地の良さや魅力に気づくことができました。直接交流し、学ぼうと行動することの大切さを実感し、これからも積極的に取り組んでいきたいと思います。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 交流校生徒

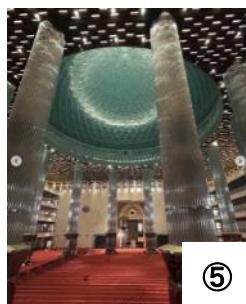
昼休みに学食を食べながら談笑をしたのがとても楽しく、忘れられないものになりました。流行りの動画を撮影し、お互いをよく知ることができました。また将来お会いしたいです。

◆ 交流校教員

このようなすばらしい機会に本校が関わることができ、関係者一同、心より感謝申し上げます。生徒たちも福翔高等学校の生徒たちと交流できたことをとても喜んでいます。この関係がここで終わることなく、今後も続していくことを願っています。

5. 参加者の对外発信（抜粋）、報道記事等

派遣プログラム



2024年12月4日（アクション・プラン 参加者共有 Instagram）

今日は大使館に行き、MRTで移動し、青年スポーツ省を訪問し、カテドラル、モスク、市場にも行かせていただきました。

1枚目は朝のホテルからの様子です。朝からすごく交通量が多かったです。インドネシアの学生さんは朝の6時半から活動しているそうです。

2、3枚目はMRTの写真です。MRTは日本が開発援助したジャカルタの地下鉄です。

4枚目はモスクに行く前に雨が降った時の写真です。短時間で大量の雨が降りました。

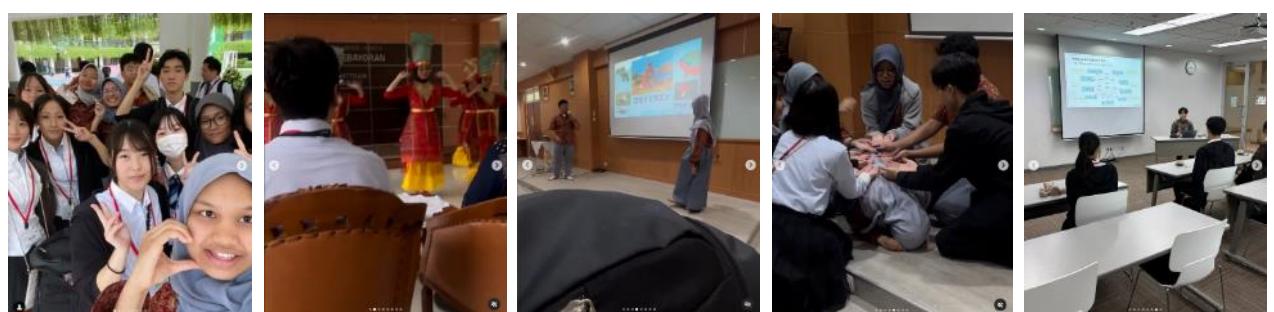
5、6枚目はモスクの写真です。6枚目の床のタイルはお祈りをする広さに合わせて作られているそうで、外でお祈りされる方もいるそうです。このタイルの広さに合わせた絨毯をみなさん持っているそうです。また、コーラン（聖書）はアラビア語で書かれているそうです。

7枚目はカテドラルの写真です。中はすごく静かで、造りが壮大で迫力がありました。

8枚目は市場の様子です。新しい市場という名前ですが、実際は一番古い市場のようです。バイクが歩く道を通るので新鮮な感じがしました。

写真にはありませんが、大使館ではインドネシアのことについてたくさんお話をいただきました。現地の方のお話はSNSで見た情報とは違った観点があり、とてもためになりました。インドネシアのGDPは、2050年には日本を越して世界4位になると言われているそうです。

明日は学校交流があります。互いの文化を理解し、尊重する機会になるよう頑張ります。



2024年12月5日（アクション・プラン 参加者共有 Instagram）

SMA Labschool Kebayoran と JICA インドネシア事務所にお邪魔させていただきました。

◆ SMA Labschool Kebayoran

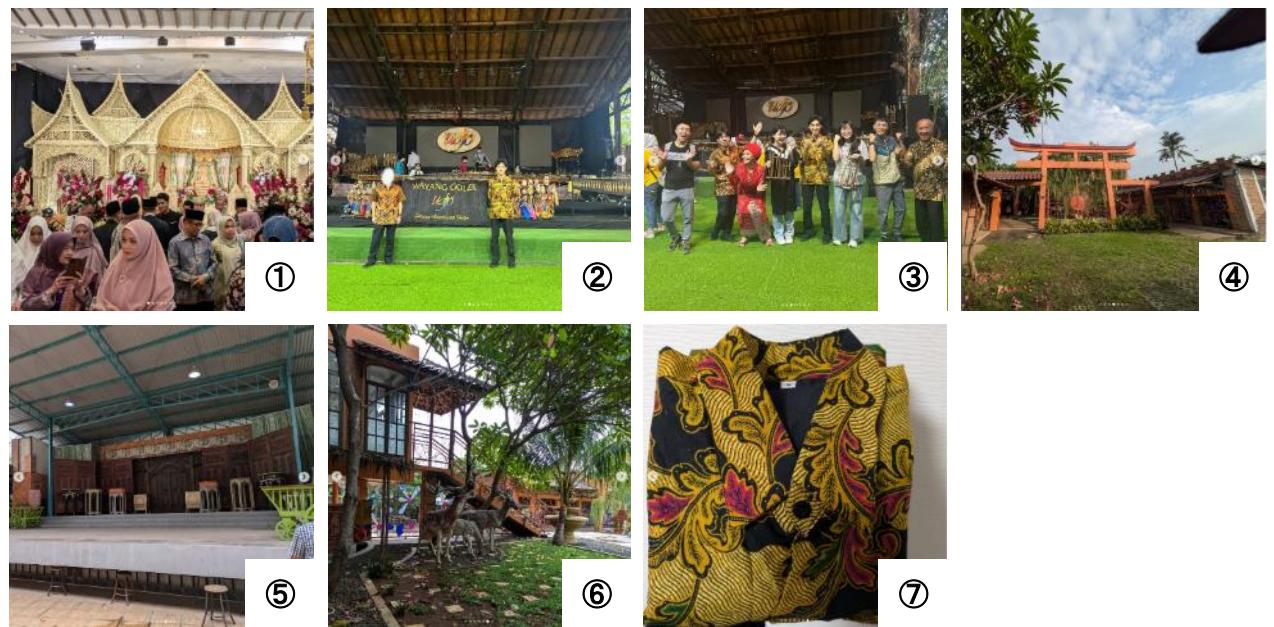
インドネシア伝統のダンスを見せていただきました。衣装も踊りもとても素敵で、ずっと見ていられるほどでした。その後、校内を案内していただき、バスケットボールにも参加させていただきました。教えてくれる生徒さんたちは優しくて、気さくに接してくださる方ばかりで、とても楽しかったです。また、日本からのプレゼンを行い、この学校の生徒さんたちからもプレゼンをしていただきました。そのプレゼンはまさかの日本語で、とても驚きました。しかも、ほとんど台本を見ずに進められており、とても参考になる内容ですばらしかったです。プレゼンの中では、インドネシア伝統の遊びも紹介していただき、実際に体験してみたところ、とても楽しかったです。そのほかにも生徒さんたちとたくさん交流することができ、とても楽しく充実した1日でした。

◆ JICA インドネシア事務所

JICA はどんな活動をしているのかという疑問を解消してきました。JICA はインドネシアの交通整備を改善するための取り組みを行っており、現在は電車を使える範囲を広げるために線路を建設している最中だそうです。すべての地域の完成にはまだ時間がかかるそうですが、このような取り組みを行っていることに驚きました。

また、海外協力隊の活動紹介では、どのようなサポートをしていて、それがどのように影響しているのかという説明を聞きました。その中で「幸せのためにみんな頑張っている」という言葉をいただき、視野が少し広がった気がしました。さらに、説明をしてくださった方がとても明るい方だったので、元気をもらえてよかったです。

接した方々はみなさん優しく、積極的に話しかけてくださる方が多かったので、自分にも自信がついて、これからの日常生活に良い変化がありそうだと感じました。



2024年12月8日（アクション・プラン 参加者共有 Instagram）

JENESYS 5日目はホームステイをしました。

1枚目：最初に行った場所は、結婚式場でした。どうやらこの日はホストファミリーの親戚の結婚式の日だったそうです。日本の結婚式とは違い、奥にはモスクのような建物がありました。

2枚目：車に揺られて約2時間、次に行った場所はバンドンでした。そこではアンクルン（竹でできた楽器）の演奏会を見ました。アンクルンは2010年に世界文化遺産に登録されたそうです。最初の演目は、ワヤンゴレッタと呼ばれる人形劇でした。ガムラン演奏とともに一人で2つの人形を動かしていました。演者の声の抑揚などが面白く、お笑い感の強い人形劇でした。

次の演目はいろいろなダンスで、多くの子どもが踊りながら自分たちの前を練り歩いていました。とても可愛かったです。その次の演目はアンクルン演奏と小さな子どもたちの「ちょうちょう」の合唱でした。司会者の人に歌ってくださいと言われましたが、歌詞を忘れていて歌えませんでした。

その次はアンクルンの体験でした。それぞれのアンクルンには1から7までの番号が書かれていて、1がド、7がシでした。竹で作られており、太い竹2本と細い竹1本で構成された楽器でした。音色はコロコロとした優しい音でした。

3枚目：仲良くなったり台湾から来た大学生の方々です。とてもフランクでいい人たちでした。一期一会を感じました。

4、5、6枚目：ホームステイさせていただいたホストファミリーのご自宅です。門が鳥居になっていて、この時点で既に豪邸の雰囲気がひしひしと伝わってきました。鳥居の先には鹿の置物があり、意外と大きかったです。その先には、なんと小さな演劇ができるぐらいの広さの舞台がありました。自分の高校の体育館のステージよりも大きかったと思います。部屋は13部屋ぐらいあるそうです。本当にすごい豪邸でした。もともとはレストランのような感じで、多くの人が集まっている写真がInstagramに載っていました。

7枚目：ホストファミリーからいただいた、値の張りそうなバティックの上着です。インドネシアで着るにはちょうどよかったです。しかし日本は今、冬なので、次に着るのは来年の夏になる予定です。それまでは押し入れの中で大切に保管します。とても楽しい時間を過ごせました。

6. 報告会での渡航成果とアクション・プラン発表（抜粋）

全1グループが発表



What I realised in Indonesia

- There are many people who can speak Japanese and English
- Recognition and understand each other's religion
- There are many young people
- Everyone is kind and actively talks to me even when we meet for the first time.

① Use sns to spread the word about your activities



【成果の発表】

インドネシアに来て改めて気付いた日本の魅力は、交通が整備されており、渋滞や割り込み、クラクションを鳴らすことが少ない点です。信号機も多く、道路を安全に横断できます。歩道と車道が分けられ、歩行者優先のルールが守られているため、安心して歩けます。

また、喫煙所が整備され、建物内はほとんど禁煙です。これは受動喫煙を防ぐためで、日本では歩きタバコをする人も少なく、タバコに対するルールが厳しいと感じました。

さらに、日本の道路は平坦で整備されており、歩きやすいです。一方、インドネシアでは道がでこぼこしていたり、穴が空いている箇所もあったりと、違いに気付きました。

インドネシアの魅力としてまず挙げられるのは、日本語や英語を話せる人が多いことです。学校訪問やホームステイを通じ、多くの学生が日本語を話せることに驚き、インドネシアと日本の繋がりの深さを実感しました。

次に、さまざまな宗教を認め合い、理解し合っている点です。イスティクラル・モスクとカテドラルが向かい合っている風景は新鮮で、宗教に対する寛容を感じました。学校訪問ではイスラム教のお祈りの仕方を教えていただき、宗教への理解を深めることができました。

さらに、インドネシアは平均年齢が29歳と若く、ジャカルタでは多くの若者が活気に満ちた街をつくりっています。この若さは今後の国の発展に大きく貢献すると感じました。

最後に、インドネシアの人々は非常に親切で、初対面でも積極的に話しかけてくれます。学校訪問では、生徒たちがすぐに話しかけてくれたおかげで、すぐに打ち解けることができました。プレゼンテーションでも積極的に質問してくれるなど、反応が良く、親切さと優しさが非常に印象的でした。

【アクション・プラン】

まず、私たちは共有の Instagram アカウントを持っており、そこに今回の活動の様子を投稿しています。しかし、日本ではフォローしていないアカウントの内容を見ることはあまりないため、TikTok や YouTube のショート動画など、できる限り多くの SNS を活用して、この活動の様子を広めていきたいと考えています。

次に、学年集会で、インドネシアの魅力や現地の高校生たちの活動について話したいと考えています。発表を直接聞くことができない他の学年の人たちには、SNS の QR コードを掲示板に貼ったり、配布したりして周知を図ります。また、QR コードに加えて写真も掲示し、興味を引き出せるよう工夫したいと考えています。